

# 保健学研究科

学生保健サポーターが運営する地域高齢者の居場所『群大保健学まちなか交流サロン』

担当学科等 保健学研究・教育センター地域保健推進室

担当者 佐藤 由美教授

## ◎事業概要

本事業は、平成27年度から開始した事業である。保健学研究科・保健学科の学生教育と地域貢献とを一体的に実施する事業であり、健康長寿社会における高齢者の地域ケア体制づくりに直接・間接的に貢献する。具体的には、次の2つの活動で構成する。

- ① 学生保健サポーター養成コース: 地域の高齢者の理解、コミュニケーション技術など、高齢者支援に必要な知識・技術を、段階的に教育する。
- ② 地域在住高齢者の居場所『群大保健学まちなか交流サロン』の運営: ①で養成した保健サポーターと教員、及び地域の自治会役員や民生委員等が共同で、自治会の公民館等の身近な場所を会場に、高齢者が気軽に集い、健康に関する学習や学生との交流、住民相互の交流を図る会を年2回程度定期開催する。

## ◎実施事業等

地域保健推進室に設置された地域貢献事業WG(教員6名にて構成)で、本事業について検討した。

### ① 養成コース

説明会を7月～10月に実施し、看護学専攻25名、作業療法学専攻3名、理学療法学専攻3名の計31名の申込みがあった。

コースは全6回で、高齢者を支援するための知識やコミュニケーション技術、学生同士の仲間づくり、前橋市と若宮地区の概要等について、学内の教員や外部講師(前橋市社会福祉協議会、国立赤城青少年交流の家、前橋市保健師、若宮地区自治会長)に依頼して実施した。

### ② まちなか交流サロン

サロンは計2回実施した。事前に実施する内容について、学生が企画・準備を行った。

・ 9月20日: 日吉町四丁目公民館

学生・教員17名、地域住民41名、行政等2名 計60名

・ 3月9日: 若宮町一丁目公民館

学生・教員25名、地域住民19名、行政等3名 計47名

## ◎期待される成果

① 高齢者がサロンへ参加することを通じ社会参加や自己実現、住民同士の相互交流が図られ、地域高齢者の介護予防やQOL向上の場を提供できる。

② 学生主体の取り組みにより、地域高齢者の理解など early exposureの場として活用することができ、地域保健医療に貢献できる専門職業人教育が実現する。

③ 看護学専攻、検査技術科学専攻、理学学専攻、作業学専攻が各々の専門性を活かした保健学研究科の地域貢献事業として地域に広くアピールできる。

④ 企画・実施プロセスを通じ、保健学研究科、群馬県、市町村、住民組織との間で地域保健のニーズを共有し、今後の協働に向けてネットワークを構築できる

<実績>

・ 国内・国際学会で、学生の学びや本事業について発表

・ 前橋市のシンポジウムで、地域でのささえあいの取り組み事例として学生が登壇

・ サロン活動が上毛新聞に掲載